

平成30年度 部局自己評価報告書 (29：学術資源研究公開センター)

II 特筆すべき取組 / 全学の第3期中期目標・中期計画への取組**【平成28年度取組】**

1. 独自性を活かした復興支援・震災記録事業の推進・展開
 - 第3期中期計画I-4 災害からの復興・申請に関する目標を達成するための措置
 - No. 37 東北大学復興アクションの着実な遂行
 - No. 38 復興に長期を要する被災地域への貢献
 - No. 39 科学的知見に基づく国際貢献活動
 センター各施設の特徴を活かし、復興支援・震災記録事業で独自の取組を継続している。
 - 1) 総合学術博物館では、震災遺構アーカイブ事業を継続し、下記の事業を実施した。
 - ・福島県浪江町・双葉町・大熊町・富岡町の被災施設等の3次元測量調査および遺構データを蓄積した。28年度より文化財等のアーカイブ化に着手し、双葉町の帰還困難区域にある国史跡の清戸迫横穴遺跡の計測では、朝日新聞の1面をはじめ新聞各紙で報道された。
 - ・地震津波シンポジウム「東海・南海巨大地震を考える in SHIMIZU」(静岡大学防災総合センターと主催)を行い、VR技術を使った震災遺構の可視化体験を実施した(3月25日)。
 - ・ふくしま震災遺産保全プロジェクト実行委と連携し、せんだいメディアテーク(12月20～25日)、明治大学博物館(1月21日～2月5日の土日)、福島県立博物館(3月10～12日)の展示会で可視化体験を実施、自然史標本館では16回の可視化体験を実施した。
 - 2) 史料館は「みちのく震録伝」と協力し、本学の災害対応に関する公文書等の再確認・整理、ホームページ等を通じた情報公開と増補を行った。東日本大震災における本学の経験を広く共有し将来に伝えるため、東日本大震災対応・復興関係の公文書等の受入を進めた。
 - 3) 植物園では、以下の事業を行った。
 - ・宮城県東松島市の宮戸島の復興事業として植物相調査を実施し、津波による環境変化によって絶滅が危惧される種の標本を保管・維持し、それらの現存個体の移植ならびに種子保存を行った。
 - ・津波で被災し、文化財レスキュー活動により依頼を受けていた中野小学校の記念樹の円盤の修復作業を完了した。さらに、同校の閉校に伴い円盤の寄贈を受け、28年5月から展示を行っている。この経緯は、新聞・テレビで報道された。
2. 展示や各種企画を通じた大学の研究成果・学術資源の公開による社会貢献事業
 - 第3期中期計画I-3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標を達成するための措置(新聞・TV取材20件、雑誌等10)
 - No. 35 社会連携活動の全学的推進
 - No. 36 知縁コミュニティの創出・拡充への寄与
 常設展示をはじめ多様な展示・各種企画を実施し、学術資源の公開、研究成果のアウトリーチを進め、大学と社会をつなぐ窓口機能の一翼を担うとともに、社会連携活動の強化を図った。それらにより、東北大学の社会での存在感を高め、地域連携の推進に貢献した。
 - 1) 総合学術博物館(9件)
 - ・「日本の火山噴火・火山災害」展示(4月1日～9月2日)、市民のためのサイエンス講座2016「火山噴火の謎に迫る～巨大地震と東北の噴火予知～」(9月3日)を広報課と実施。
 - ・「ナショジオオープンキャンパス2016 ココロコ田中の「動物のこれ知ってた？」トークショー 仙台編」(9月24日)をナショジオTV・東北大学・東北大学総合学術博物館で共催。
 - ・「アジアの中の東北地方の旧石器文化展」(10月14日～12月18日)を文学研究科と仙台市地底の杜ミュージアムと共催。同時に公開講演会と国際シンポ(11月26～27日)開催。
 - ・県庁県政広報展示室企画展「宮城県の化石展」(10月11日～11月4日)を宮城県庁で開催。
 - ・博物館等の連携組織である仙台宮城ミュージアムアライアンス(SMMA)に参加し、「SMMAクロスイベント：みんなでどろんこ！生きもの観察 in 地底の森」(9月25日、10月2日)、「SMMA見験楽学ツアー：太古の仙台再発見！ー広瀬川の地層と火砕流ー」(11月

5・19日)、SMMAミュージアムユニバース(12月17～18日)の連携企画を実施。これらには「みちのく博物楽団」が参加し、学生の社会貢献の場となっている。

2) 史料館(4件)

常設展「歴史のなかの東北大学」「魯迅と東北大学」を継続、仙台市博物館と連携して企画展「学都仙台を支えた天財」(9～12月)および講演会「学都仙台と斎藤報恩会」を開催。

3) 植物園(8件)

- ・公開市民講座「都市生態学：都市に見られる自然」(全6回)、植物画講座(2回)を開催し、のべ340名の参加者を得た。技術職員による園内ガイドツアーを6回開催。
- ・「5月4日は植物園の日、ふるさとの植物を守ろう」(日本植物園協会後援)、「紅葉の賀」(11月3日、文学研究科と共催)、園内ガイドツアー(2回)、「東北大植物園でイキイキした自然の写真を撮ろう!～親子で楽しむ一眼レフカメラ撮影会～」(7月31日、仙台環境館、キャンノンマーケティングジャパン、環境科学研究科・植物園共催)を実施。
- ・宮城県を中心とした小中高校の校外学習等として、中高校の計51校、642名を受け入れた。

3. 大学の有する自然環境・歴史的資源の保全と活用を通じた社会連携の強化

第3期中期計画V-1 施設整備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置

No. 71 知的交流と国際交流を促すキャンパス整備

第3期中期計画V-5 大学支援者等との連携強化に関する目標を達成するための措置

No. 81 地域住民等との協働の緊密化

No. 82 校友間の協働の緊密化

- 1) 総合学術博物館と史料館は、広報課・施設部等と協力し、片平地区の歴史的建造物の価値の明確化のため、国の登録文化財へ登録するための準備を進めた。
- 2) 植物園は、天然記念物「青葉山」を適切に保全・公開すると共に、環境省が行っているモニタリングサイト1000への参加(本園、八甲田)を継続し、森林動態および炭素循環動態に関わる調査を実施して、生態系の観測に貢献した。
- 3) 史料館では、卒業生その他の大学関係者から受贈した資料による「校友アーカイブズ」の充実を図り、平成28年度は1376点の公開を行った。
- 4) 植物園ではホームカミングデー、萩友会プレミアム会員懇談会で無料開園を実施した。

4. 公文書館機能の充実と文書管理制度改善への貢献による大学運営への貢献

第3期中期計画V-4 情報基盤等の整備・活用に関する目標を達成するための措置

No. 79 情報基盤等の整備・活用に関する目標を達成するための措置

No. 80 学術情報拠点としての図書館機能の活用

史料館では、「国立公文書館等」の指定施設として本学の重要公文書の選別・受入を進め、公文書専用書庫を整備し、保存管理体制を充実させた。本学の公文書管理システムの改善策を総務企画部法務課との共同で検討し、研修会等を実施した。また、デジタルアーカイブズ改善の一環として、新たに「所蔵文書検索システム」を整備した。

5. 先端技術を活用した学術資源利用の促進

第3期中期計画I-2 研究に関する目標を達成するための措置

No. 19 長期的視野に立脚した基礎研究の充実

No. 26 多彩な研究力強化を引き出して国際競争力を高める環境・推進体制の整備

No. 33 共同利用・共同研究拠点の機能強化

- 1) 総合学術博物館では高分解能X線CT設備(学内共同利用)を活用し、学内7部局、学外17機関と連携し、多分野での共同研究を実施、新しい学際的研究領域の創出を行った。
- 2) 東北放射光計画に協力して、総合学術博物館では「多ボクセル物体の高空間分解能測定による立体構造解析エンドステーション」の提案を行い、また、「エンドステーション・デザインコンペ公開シンポジウム」(11月11日、東京)、「SLiT-J イメージングエンドステーションに関するミニワークショップ」(3月13日、東北大学)に参加して講演を行った。

【平成 29 年度取組】

1. 独自性を活かした復興支援・震災記録事業の推進・展開

第 3 期中期計画 I-4 災害からの復興・申請に関する目標を達成するための措置

- No. 37 東北大学復興アクションの着実な遂行
- No. 38 復興に長期を要する被災地域への貢献
- No. 39 科学的知見に基づく国際貢献活動

センター各施設の特徴を活かし、復興支援・震災記録事業で独自の取組を継続している。

- 1) 平成 30～33 年度から人間文化研究機構、東北大学、神戸大学を中心に実施予定の「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」の準備が 29 年度から開始され、総合学術博物館もこの事業に参画し、担当する事業等の検討を進めた。
- 2) 総合学術博物館では、震災遺構アーカイブ事業を継続し、下記の事業を実施した。
 - ・福島県大熊町・富岡町の 8 箇所の被災施設等の 3 次元測量調査および遺構データを蓄積。
 - ・「ふるさと双葉の歴史を 3D で体験しようー清戸迫横穴の壁画ー」を双葉町教育委員会と共催し、双葉町立学校（2 月 22 日）と双葉町役場いわき事務所（3 月 18 日）で実施。
 - ・「地震津波シンポジウム」（和歌山大学と主催）を和歌山市で行い、震災遺構の可視化体験を行った（2018 年 3 月 24 日）。
 - ・「地学から災害を学ぼう in 松島」を松島町で開催し、遺構の可視化体験を実施（12 月 10 日）した。自然史標本館でも 6 回、可視化体験会を行った。
- 3) 史料館は、本年度も「みちのく震録伝」と災害対応の公文書等の再確認・整理、情報の公開と増補、また、東日本大震災対応・復興関係の公文書等の受入を継続して行った。
- 4) 植物園では、宮城県、福島県、岩手県における津波浸水域における植物標本資料の収集を行い、復旧・復興前の津波攪乱域の新植物の出現状況を記録した。

2. 展示や各種企画を通じた大学の研究成果・学術資源の公開による社会貢献事業

第 3 期中期計画 I-3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標を達成するための措置（新聞・TV取材 31 件、雑誌等 12 件）

- No. 35 社会連携活動の全学的推進
- No. 36 知縁コミュニティの創出・拡充への寄与

常設展示をはじめ多様な展示・各種企画を実施し、東北大学の学術資源の公開、研究成果のアウトリーチを進め、大学と社会をつなぐ窓口機能の一翼を担うとともに、社会連携活動の強化を図った。それらにより、東北大学の社会での存在感を高め、地域連携の推進に貢献した。

1) 総合学術博物館（7 件）

- ・「陸奥国分寺展ー発掘黎明期の挑戦者ー」（10 月 20 日～12 月 17 日）を文学研究科と仙台市地底の杜ミュージアムと共催。あわせて公開講演会（11 月 19 日）開催。
- ・県庁県政広報展示室企画展「宮城県と金属」（10 月 10 日～11 月 2 日）を宮城県庁で開催。
- ・小企画展「県の石展」（2 月 14 日～4 月 15 日）をスリーエム仙台市科学館と共催。
- ・スリーエム仙台市科学館など主催の企画展示「「あかつき」が拓く新しい金星観」に共催。あわせて公開講演会（2 月 24 日）開催。
- ・「SMMA クロスイベント：きみも富沢博士！“かせき”ってなあに？」（11 月 11 日、2 月 17 日）、SMMA ミュージアムユニバース（12 月 15～17 日）の連携企画を実施した。これらには「みちのく博物楽団」が協力し、学生の社会参加の機会となっている。

2) 史料館（3 件）

- ・「歴史のなかの東北大学」「鲁迅と東北大学」を継続、「都市景観大賞特別賞・登録有形文化財記念ー片平キャンパスの過去・現在・未来」展を仙台市等と連携し開催した（9～12 月）。

3) 植物園（8 件）

- ・「5 月 4 日は植物園の日、ふるさとの植物を守ろう」（日本植物園協会後援）では、植物のガイドツアーに加え、仙台市メディアテーク、本学埋蔵文化財調査室と連携し、植物園内の亜炭利用の歴史および史跡に関するガイドツアーを行った。
- ・自然史講座「水辺に住む植物たち」（6 回）、植物画講座（2 回）を開催し、のべ 332 名参加。

- ・「紅葉の賀」（11月3日、文学研究科と共催）、園内ガイドツアー（2回）、写真展（H28開催の撮影会の作品を展示）、技術職員による園内ガイドツアー（6回）を実施。
- ・宮城県を中心とした小中高校の校外学習等として、中高校の計35校、982名を受け入れた。

3. 大学の有する自然環境・歴史的資源の保全と活用を通じた社会連携の強化

第3期中期計画V-1 施設整備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置

No. 71 知的交流と国際交流を促すキャンパス整備

第3期中期計画V-5 大学支援者等との連携強化に関する目標を達成するための措置

No. 81 地域住民等との協働の緊密化

No. 82 校友間の協働の緊密化

- 1) 29年度には片平地区の5棟の建物が登録有形文化財に登録され、片平キャンパスが都市景観大賞特別賞を受賞した。総合学術博物館と史料館は、担当理事のもとに設置されたワーキンググループに参加し、キャンパスの歴史的資源の保全・活用方策の検討を進めた。
- 2) 史料館は、「都市景観大賞特別賞・登録有形文化財記念-片平キャンパスの過去・現在・未来展」を開催し、大学の歴史的資源の活用を図り、仙台宮城ミュージアムアライアンスの協力も得て、7回の片平キャンパス建物ツアーを開催した。
- 3) また史料館は、卒業生その他の大学関係者から受贈した資料による「校友アーカイブズ」の充実を図り、平成29年度は405点の公開を行った。
- 4) 植物園は、天然記念物「青葉山」を適切に保全・公開すると共に、絶滅危惧植物等の国内外の植物を受け入れ、種の保全に貢献した。環境省モニタリングサイト1000への参加を継続し（本園・八甲田）、森林動態および炭素循環動態に関わる調査を実施した。
- 5) 植物園では、ホームカミングデー（117名）、萩友会プレミアム会員懇談会（218名）で無料開園を実施した。市民団体「青葉山*八木山フットパスの会」に協力し、植物園内でのガイドツアー実施、フットパスガイドマップ作成協力を行なった。

4. 公文書館機能の充実と文書管理制度改善への貢献による大学運営への貢献

第3期中期計画V-4 情報基盤等の整備・活用に関する目標を達成するための措置

No. 79 情報基盤等の整備・活用に関する目標を達成するための措置

No. 80 学術情報拠点としての図書館機能の活用

- 1) 史料館では、「国立公文書館等」指定施設として本学の重要公文書の選別・受入を進めるとともに、公文書専用書庫を整備し、保存管理体制を充実させた。本学公文書管理システムの改善策を総務企画部法務課との共同で検討し、研修会等を実施した。
- 2) 史料館では、大学運営の記録を体系的に残すために、新たに「総長・理事・副学長アーカイブ事業」を実施し、肖像写真の撮影・保存、実績ヒアリング・資料収集を行った。

5. 先端技術を活用した学術資源利用の促進

第3期中期計画I-2 研究に関する目標を達成するための措置

No. 19 長期的視野に立脚した基礎研究の充実

No. 26 多彩な研究力強化を引き出して国際競争力を高める環境・推進体制の整備

No. 33 共同利用・共同研究拠点の機能強化

- 1) 総合学術博物館では高分解能X線CT設備（学内共同利用）を活用し、学内17部局、学外17機関と連携して共同研究を実施し、新しい学際的な研究領域の創出を行っている。また、3次元可視化技術の安価で実用的なシステムの開発も民間と共同で行った。
- 2) 史料館では、「大学アーカイブズセミナー」の一環として「学術資産の利活用とデジタルアーカイブ」等を開催し、学術資産等アーカイブズの構築とLOD（Linked Open Data）によるその活用のため、新たな研究領域の開拓を図った。